日常的に「言葉の力」を

松戸：柳田良雄

国語科の指導のねらいは「言葉の力をつける」ことであるととらえている。言葉の力をつけるとは、国語の授業に限らず、日常的に行っていくことによる。私は学級通信で紹介したり呼びかけたりもしている。以下、昨年度発行した学級通信「ワンダーランド」から紹介する。

ワンダーランド

　　　　　　　　　　　　４年２組　学級通信　76号　2018、3、2

展開図

立方体の展開図を学んだ。全部で１１種類ある。すべてかき出した子は、やまとくん　はるかさん　ゆうかさん　ゆうさん　おとはさん。

よくできました。

すてきな言葉

先日男の子同士のけんかがあった。もうそろそろまずいだろうな、と思われるときにあつやくんとはるきくんが止めに入ってくれて収まった。その後、山ひなたさんが当事者の子に

「だいじょうぶ？痛かったね。」

と声をかけた。

「痛かったね」なんてすてきな言葉かけだろう。同情でもなし、励ましとも違う、共感の言葉だ。

言葉といえば、今まで子どもたちに語った言葉をあげてみる。これからの学校生活などで役立ててほしい。

（その１）

なめた指がかわくまで待て

　ムカッとしたとき、怒りがわき上がってきたとき、グッとこらえ落ち着くことが大事だ。なめた指がかわくまで、言動をひかえてみよ。冷静な態度がとれるようになる。

練習は本番のつもりで本番は練習のつもりで

　行事に向けての練習の際、だらけてふざけてしまうことがある。練習に緊張感をもってのぞむ。逆に本番にはできるだけリラックスしてのぞむ。「そうはいってもやっぱり緊張してしまう。」との声あり。「緊張していいのだ。緊張するのはまじめに取り組もうとする証拠だ。卒業式で証書をもらうとき、ガチガチになりそうでどうしたらよいかとの相談を受けたことがある。『人という字を手のひらに書いて飲み込むといったおまじないがあるよ。でもそれよりもガチガチでいいと思ったほうがいいのでは。足と手がいっしょの向きになって歩いてしまうくらいでいいんだよ。大いに緊張すればよい』とアドバイスしたよ。」といった話をしたことがある。

ワンダーランド

　　　　　　　　　　　　４年２組　学級通信　80号　2018、3、15

おさらい（その２）

社会では松戸市小学校名と千葉県の市のジグゾーで地名や場所を確認していった。都道府県テストは東日本、西日本にわけて実施する。

松戸市小学校名ジャンケンジグゾー各班優勝者

金りこさん　　　ななみさん　　　はるき君　　　山ひなたさん

りんたろう君　　村ひなたさん　　なゆさん　　　ゆうかさん

最高得点者は、村ひなたさん２１点

千葉県ジャンケンジグゾー各班優勝者

みつはる君　　きら君　　ななみさん　　ゆなさん　　しょうごう君

かんなさん　　あすか君　　やまと君　　かのんさん

最高得点者は、ゆなさんとかんなさん２３点

先生のお話

帰りの会での「先生のお話」。

「『もぐもぐタイム』とてもよくできています。もぐもぐまではおしゃべりしながら、何を食べているのだかわからないけど、エサみたいにガツガツと食べてるでしょ。でも、もぐもぐのときには『あっ、人参食べてたんだ。へぇ、人参ってけっこう甘いんだな』なんて思いながら食べるのですよ。そうすると栄養になりますから。ところで今日ココアパンが出たでしょ。お口のまわりにココアをつけちゃった子がいて、『ココアついてるよ』『あっ、ありがとう』なんてやりとりありましたね。あれはもちろんおしゃべりではありませんね。おしゃべりどころかとてもよい声掛け合いです。『はい、しゃべった！』なんて言う子がいなくて、みんな大人になったなぁと思いましたよ」

「書写の佐藤先生から『お休みしていてできなった子のプリントお願いします』と頼まれました。その子たちを呼んで『掃除の時間にやりましょう』といったら数名の子が『いやだ』と言うんですね。理由は『掃除をやりたい』とのこと。先生はうれしくなりましたよ。掃除は人間の成長にとってとてもいい行いです。だから掃除さぼりの罰は、掃除をさせないこと、と先生は言いましたよね。掃除というすばらしいことをさせない、これこそ罰です。先生の伝えていたことがわかってくれていたようでうれしかったです。そう、だから罰そうじって先生はちょっとへんだな、と思います。そうだ、先生が中学生の時の先生が『宿題忘れしたヤツは校庭５周、走ってこい！』と言ってましたが、走ったら体力ついていいではないかと思いましたよ。井上先生はどうでしたか？（学生ボランティアさんが教室にいたので）え？おかわり禁止？宿題とおかわりは関係ないですね。宿題忘れるような子はむしろたくさん食べてしっかり勉強してほしいですね。」

ワンダーランド

　　　　　　　　　　　　４年２組　学級通信　82号　2018、3、22

伝えてきた言葉

間違えはダイヤモンド

人間は、間違えをおかしながら成長する。特に子どもは日々、間違え・失敗を繰り返す。元気よく挙手して答えても、とんちんかんな解答であることがたくさんたくさんある。間違えた答えを言った子は、ダイヤモンドを獲得できる。子どもにとって授業中の間違えはダイヤモンドだ。間違えないような子は伸びない。「『できない』は金、失敗は宝、間違えはダイヤモンド」だ。

寒いねと　話しかければ　寒いねと　こたえる人の　いるあたたかさ

　俵万智さんの短歌。教室にも掲示してある。「寒いね」と話しかけられたら、相応の言葉で返すことが対話というものだ。「だから？」とは「はぁ？意味わかんねえ」などと応答するのはやめよう、と話してきた。

禁止の３Ｄ

「『でも　だって　どうせ』と言わないようにするといいですよ。『でも』はいいわけです。『だって』は、自分が悪いのではないと言っていること、責任転嫁といいます。いけないことをしてしまったら、四の五の言わずにまず謝るんですよ。（先生、四の五のって何ですか？）ごちゃごちゃ言わずにということです。ほら、昔先生が教えた子の中で堂々としたさわやかな男の子がいたという話、覚えているでしょ？最後の『どうせ』は自分のことを悪くいうこと。これ絶対だめですよ。あなたたちはまだ子どもなのですから。悪いことしたって牢屋にもいれてくれない年齢なのですよ。そんな子どもが『どうせ』なんていう場面なんてありません。自信満々で進みなさいな。」

まだ半分、もう半分

「コップにジュースがこれくらい入っているとしますよ。『まだ半分ある！』と思うか『もう半分しかないや』と思うかで、世界が違って見えるのですよ。嫌な方を見ず、よく思うのですよ。（それ、ポジティブって言うんでしょ！）はい、よく知ってますね。雨がふっても『ああ、よかった』、おかわりじゃんけんに負けても『ああ、よかった』（えぇ、それ、絶対無理！）ってね。」

言霊

「言葉にはね、魂がやどっているのですよ。よい言葉を投げかける人にはよい思いが育ちます。悪い言葉を投げかけている人は、自分の心がじわじわと弱っていきますよ。言葉はね、人間しか使えないのですよ。テレビで猿がしゃべっているのを見たという人いるようだけど、猿がしゃべれない実験方法、覚えてるでしょ？」